

公立大学法人和歌山県立医科大学

第1期中期目標期間における中間総括評価結果
(平成18～平成21事業年度)

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の第1期中期目標期間における中間総括評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第30条に係る中期目標に関する業務の実績に関する評価（中期目標期間終了時）に先んじて、中期目標の達成見込み等に係る業務の実績に関する中間総括評価（平成18年度から平成21年度分まで）を実施しました。

中間総括評価は、法人が作成した中期計画について、評価委員会が平成18年度から平成21年度における中期計画の各項目の進捗状況の調査及び分析を行い、同期間における法人の業務実績全体について総合的に評価を行うものであり、法人の自主的・自律的な運営及び大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人から提出された中期計画一覧表により、平成18年度から平成21年度における中期計画の各項目の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の中間総括評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られることにより、教育研究が一層充実するとともに、法人の業務運営状況について、県民のより一層の理解が深まることを期待します。

なお、今回の評価委員会による中間総括評価を踏まえ、中期目標残存期間の年度計画について、改善・充実を図るとともに、次期中期目標・中期計画策定の検討に反映させることが重要であると考えています。

平成23年5月26日

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	1

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	2
(2) 研 究	3
(3) 附属病院	3
(4) 地域貢献	4
(5) 産官学の連携	4
(6) 国際交流	5
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 運営体制の改善	5
(2) 教育研究組織の見直し	5
(3) 人事の適正化	5
(4) 事務等の効率化・合理化	6
3 財務内容の改善	
(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加	6
(2) 経費の抑制	6
(3) 資産の運用管理の改善	7
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	7
(2) 情報公開等の推進	7
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	8
(2) 安全管理	8
(3) 基本的人権の尊重	8
<参考>	9

第1 全体評価

1 総 評

「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という基本的な目標のもと、平成18年度から平成21年度までの4年間で、公立大学法人として求められている「地域に開かれた大学」及び「地域社会への貢献」という使命を果たすべく、より良い大学教育と地域医療を実現するために、教職員が一丸となり組織の充実・拡充と事業の拡大に取り組んだ。

その結果、中期計画記載219項目の実施状況を確認したところ、16項目について「中期計画を上回って実施できる見込みである。」と認められ、また、203項目について「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体的には概ね順調に進んでいると認められる。

2 特色ある取組等

- 医学部定員増に伴い、医学部三葛教育棟の建設等教育環境の整備を行うとともに、「地域医療枠」と「県民医療枠」の新たな採用枠を設けることにより、学生が地域医療を支える人材として定着するよう教育の充実を図った。
- 地域医療及び高度医療人の育成に寄与することを目的とした「高度医療人育成センター」を設置し、医学部学生及び研修医等の教育研修環境を一層高めるとともに、女性の職場復帰支援の充実に努めた。
- 「大学院保健看護学研究科（修士課程）」及び「助産学専攻科」を開設し、専門職の育成等に努めた。
- 産官学連携を推進するため、「産官学連携推進本部」を設置し、さらに、株式会社紀陽銀行との連携協定締結による「異業種交流会」を開催することにより、企業とのマッチングを促進するとともに外部資金獲得に努めた。
- 平成18年度に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、多数の講演会や研修などを行いがん診療の改善に貢献した。また、平成21年度には、「腫瘍センター（化学療法、放射線治療及び緩和ケアの3部門）」を設置し、診療体制の充実を図った。
- 本県においても深刻な問題となっている医師不足等に対して、「生涯研修・地域医療支援センター」等の組織強化を行い、更なる地域の医療機関への支援強化を期待する。
- 医療用材料、医薬品においては、経費抑制には至っていないため、今後、実行可能な抑制策を立案する必要がある。
- 平成21年度に顕在化した「研究費の不適正支出」について、既に「監査室」の設置など積極的な再発防止に取り組んでいるが、更なるガバナンス強化への取り組みを期待する。
- 平成22年度に開院の紀北分院について、今後、病床稼働率及び収支の改善に期待する。

第2 項目別評価

評 定 の 区 分	S・・・中期目標の達成状況が非常に優れることとなる見込みである。 A・・・中期目標の達成状況が良好となる見込みである。 B・・・中期目標の達成状況がおおむね良好となる見込みである。 C・・・中期目標の達成状況が不十分となる見込みである。 D・・・中期目標の達成のためには重大な改善事項がある。
-----------------------	--

1 教育研究等の質の向上

(1) 教 育

【評定】 A（中期目標の達成状況が良好となる見込みである。）

中期計画の記載82項目中全てが「中期計画を上回って実施できる見込みである。」又は「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

<医学部>

- 医学部学生定員増に伴い、カリキュラムの改定及び外部講師の増員を行った。
- 医学部三葛教育棟、高度医療人育成センターの建設及び基礎教育棟、実習棟の改修により教育環境の整備を行った。
- 老人福祉施設、保育施設、障害者福祉施設及び緩和ケア病棟で実習を行うことにより、ケアマインド教育の充実を図った。
- 医師国家試験の合格率が低下しており、原因の探求と対策を進め、今後、改善に向けた努力が必要である。

<保健看護学部>

- 平成20年度に「保健看護学研究科（修士課程）」を開設し、専門職の育成等に努めた。
- 保健師、看護師の合格率が100%であり、教育水準の高さを示すものである。

<助産学専攻科>

- 平成20年度に「助産学専攻科」を開設し、専門職の育成等に努めた。
- 助産師国家試験の合格率が100%であり、教育水準の高さを示すものである。
- 地域医療への参加を促進し、地域との交流、医療への学生の関心を高めるため「助産管理実習」において、開業助産師のもとで宿泊実習を行い、母子保健活動や助産所業務を学べる教育環境を整備した。

<共通>

- 「健康管理センター」及び「国際交流センター」を設置し、外国人留学生を含む学生及び職員に対する支援体制を充実させた。
- 「教育研究開発センター」及び「臨床技能センター」を設置し、質の高い医療人の育成に努めた。

(2) 研究

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載 20 項目中全てが「中期計画を上回って実施できる見込みである。」又は「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 「観光医学講座」において、「スポーツ・温泉医学研究所」で活発な研究活動を行うとともに、和歌山市中心部で新たに「みらい医療推進センター」を開所し、診療機能を持つ「サテライト診療所本町」と研究機能を持つ「げんき開発研究所」を併設し、診療活動の改善や疾病予防につながる研究施設の充実を図った。
- 学部、講座、研究室などの枠を超えた「横断的特定研究助成プロジェクト」を推進し、その成果も出始めている。
- 平成 18 年度に「機能性医薬食品探索講座」及び「観光医学講座」を新たに開講し、食品の新商品開発等の研究や疾病患者向け旅行企画を行い、食事療法等の指導を行うとともに宿泊施設における献立栄養指導を行うなど、和歌山県ならではの研究に取り組んだ。
- 平成 18 年度に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、多数の講演会や研修などを行い、がん診療の改善に貢献した。
- 産官学連携を推進するため、「産官学連携推進本部」を設置し、さらに、株式会社紀陽銀行との連携協定締結による「異業種交流会」を開催することにより、企業とのマッチングを促進するとともに外部資金獲得に努めた。

(3) 附属病院

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載 42 項目中全てが「中期計画を上回って実施できる見込みである。」又は「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 財団法人日本医療機能評価機構の認定を取得した。(平成 19 年度)
- 平成 18 年度に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、多数の講演会や研修などを行い、がん診療の改善に貢献した。また、平成 21 年度には、「腫瘍センター(化学療法、放射線治療及び緩和ケアの 3 部門)」を設置し、診療体制の充実を図った。
- ドクターヘリの運行や救命救急センターの強化により、重症患者の救命に大いに貢献するとともに、県内の救急医療の地域間格差の是正に寄与した。また、ドクターヘリについては、大阪府及び徳島県と相互応援の運行を開始し、近畿圏の広域救急医療の充実に貢献した。

<ドクターヘリの出動件数>

H 1 8	H 1 9	H 2 0	H 2 1
3 3 8 件	3 7 9 件	3 8 6 件	3 8 7 件

- 外部講師を招聘した研修を実施するとともに、e-learning コンテンツの作成に取り組み、看護師の卒後研修体制を確立した。
- 診断書作成ソフトを導入し、受付から交付までの所要日数を著しく短縮させた。
- 医薬品、診療材料の預託方式の採用、アウトソーシングの見直し、DPCデータを活用した総合分析システムの導入による効率化を図ることにより、経費削減に努めた。

(4) 地域貢献

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載12項目中全てが「中期計画を上回って実施できる見込みである。」又は「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 平成18年度に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定され、多数の講演会や研修などを行いがん診療の改善に貢献した。また、平成21年度には、「腫瘍センター（化学療法、放射線治療及び緩和ケアの3部門）」を設置し、診療体制の充実を図った。
- ドクターヘリの運行や救命救急センターの強化により重症患者の救命に大いに貢献するとともに、県内の救急医療の地域間格差の是正に寄与した。また、ドクターヘリについては、大阪府及び徳島県と相互応援の運行を開始し、近畿圏の広域救急医療の充実に貢献した。

<ドクターヘリの出動件数>

H18	H19	H20	H21
338件	379件	386件	387件

- 地元NPOとの連携により医療サービスを付加した「観光医学講座ツアー」を開催するとともに、「観光医療指導師」及び「観光健康指導士」の育成を行った。
- 「小児育成医療支援講座」において医療と相談の両面からの支援事業を本学及び公立那賀病院において行うとともに、「周産期医療ネットワーク協議会」を設置し、安心・安全な周産期医療体制を確保するための調査研究を実施した。
- 「生涯研修・地域医療支援センター」を設置し、全学的な地域医療支援に取り組んだ。
- 県内の学生を対象とした本学教員による「出前授業」を実施した。

(5) 産官学の連携

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載4項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 産官学連携を推進するため、「産官学連携推進本部」を設置し、さらに、株式会社紀陽銀行との連携協定締結による「異業種交流会」を開催することにより、企業とのマッチングを促進するとともに外部資金獲得に努めた。今後、企業とのマッチングの促進を期待したい。

(6) 国際交流

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載5項目中全てが「中期計画を上回って実施できる見込みである。」又は「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 「国際交流センター」を設置するとともに、「国際交流ハウス」を整備し、外国人研究者や留学生の受け入れ体制及び修学支援体制を整備した。
- 諸外国の大学に教員及び学生の相互派遣を行うことにより、学術交流を行った。

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 運営体制の改善

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載8項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 教育研究の充実と学部運営の活性化を図るため、大学の教育研究に関する重要事項を審議する「教育研究審議会」と学部の教育研究に関することを協議する「教授会」に役割分担した。
- 「生涯研修・地域医療支援センター」を設置し、全学的な地域医療支援に取り組んだ。
- 産官学連携を推進するため、「産官学連携推進本部」を設置し、さらに、株式会社紀陽銀行との連携協定締結による「異業種交流会」を開催することにより、企業とのマッチングを促進するとともに外部資金獲得に努めた。
- 今後も引き続き、監事の理事会への出席を促したい。

(2) 教育研究組織の見直し

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載2項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 理事会を開催し、教育研究、経営基盤の強化等を図る重要事項を協議するとともに、適宜、企画戦略会議を開催し、大学運営について検討している。
- 各種委員会のうち、役割を終えたもの及び統合できるものを検証し、11委員会を廃止し、業務の効率化を進めた。

(3) 人事の適正化

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載8項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 医学部全教員に任期制度を導入した。
- 「女性医師支援センター」(現：女性医療人支援センター)を創設し、職場復帰へのサポート体制を充実させた。

(4) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載2項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 事務組織8課室19班を再編し、人力的に制約のある中で、新たに監査室を設置した。
- アウトソーシングの導入による運営コストの削減に努めた。
※給与計算事務、新物流システム、看護補助業務、滅菌業務、清掃業務、医事業務、
薬剤取り揃え及び払い出し業務等
- 監査システムを早急に構築し、機能ある体制を確立させる必要がある。
- アウトソーシングについては、常に点検、見直しを行う必要がある。

3 財務内容の改善

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載5項目中全てが「中期計画を上回って実施できる見込みである。」又は「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 事務局に外部資金に関する情報収集、情報提供を行う企画課を設置し、奨学寄附金等外部資金の受入手続きを整備した。
- 知的財産について、関係規程を制定し、機関管理を行うことにより、大学が勤務発明の特許を継承した。
- 産官学連携を推進するため、「産官学連携推進本部」を設置し、さらに、株式会社紀陽銀行との連携協定締結による「異業種交流会」を開催することにより、企業とのマッチングを促進するとともに外部資金獲得に努めた。
- 病床管理センターを設置し、病床稼働率の増大を図った。

(2) 経費の抑制

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載4項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 新物流システムの導入により診療材料の効率的供給と在庫の縮小が図れた。
- アウトソーシングの導入による運営コストの削減に努めた。
※給与計算事務、新物流システム、看護補助業務、滅菌業務、清掃業務、医事業務、
薬剤取り揃え及び払い出し業務等
- 節水・エレベーター使用自粛・不要な照明の消灯の啓発により、管理費節減に努めた。
- 医療材料、医薬品の仕入れに関し、入札方法を改善し、価格交渉の取り組みへの強化が望まれる。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載1項目が、「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められたことによる。

【評価及び指摘事項】

- 定期預金と譲渡性預金による適切な運用を行った。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載5項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 財団法人日本医療機能評価機構の認定を受けた。(平成19年度)
- 財団法人大学基準協会の相互評価を受けた。(平成20年度)

(2) 情報公開等の推進

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載4項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ホームページ内容の充実、広報誌作成など積極的に情報提供を行った。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載5項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 医学部三葛教育棟を建設し、学生の定員増に対応した。
- 「紀北健康出前講座」を開催してPRを行った。

(2) 安全管理

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載4項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 健康管理センターの設置や産業医の配置などを行い、安全管理体制を整備した。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A (中期目標の達成状況が良好となる見込みである。)

中期計画の記載6項目中全てが「中期計画を十分に実施できる見込みである。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- 職員等相談処理規程を制定した。(平成19年度)
- ハラスメントに関して職員が認識すべき事項についての指針を作成し、研修を行った。
- 倫理委員会の外部委員を1名増員した。(平成20年度)
- 患者からの医療相談や職員の対応等への苦情に対し、医事相談員、医療福祉相談員及び医事管理班で連携して対応した。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 等
茨 常 則	日本医療文化研究会 主宰
佐 藤 エキ子	聖路加国際病院 副院長・看護部長
島 岡 ま な	大阪大学大学院高等司法研究科 教授
◎ 月 山 和 男	月山病院 名誉院長
橋 本 佳 明	上尾中央総合病院 生活習慣病センター長
林 宏	元株式会社紀陽銀行 専務取締役

○中間総括評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成22年 8月17日開催
- ・第4回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成23年 3月持ち回り開催
- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成23年 5月26日開催